

# 2019年度指定 文部科学省事業

## 地域との協働による 高等学校教育改革推進事業（グローバル型） 研究報告書

### 第3年次

「観光都市 with SDGs」  
～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～



三重県立宇治山田商業高等学校

2019年度指定  
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

研究報告書・第3年次

令和4年3月 三重県立宇治山田商業高等学校

目次

巻頭言 校長 廣島 朗

第1章 研究開発実施報告	1
第2章 実施報告書	
第1節 SDGs基礎プログラム	9
第2節 SDGs探究プログラム	18
第3節 SDGs語学力向上プログラム	41
第4節 伊勢志摩PRプログラム	51
第5節 国際交流プログラム	55
第6節 研修プログラム	60
第7節 成果発表に係る活動	85
第8節 効果の測定	96
第9節 運営指導委員会報告	103
第10節 グローカル人材育成コンソーシアムみえ報告	104

## 巻 頭 言

本校は、令和元年度に文部科学省から「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の指定を受け、「観光都市 with SDG s ~伊勢志摩！未来創造プロジェクト~」をテーマとし、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー育成」を図るために3年間研究開発に取り組みました。研究を進めるにあたっては、地元伊勢市をはじめ、運営指導委員の皆さま、コンソーシアム委員の皆さま、関係機関の方々から3年間継続的にご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本研究は持続可能な社会を構築する地球市民力と観光都市伊勢志摩の未来を描く未来想像力の育成として「地球市民力の育成」と「未来創造力の育成」のカリキュラム開発に取り組むこととしました。「地球市民力の育成」では、自然・歴史・食文化等の魅力あふれる伊勢志摩地域を持続可能な社会として未来につなげるSDG s 推進プログラム開発を行いました。また「未来創造力の育成」では、観光資源豊かな伊勢志摩の魅力を広く国内外に発信するとともに、新しい観光ビジネスモデル等を実現するための観光都市を描くプログラム開発を行いました。これらのプログラム開発にあたっては、生徒個々の資質・能力を測定するツール「AiGROW」や、事業取組に関する生徒アンケート、コンソーシアム会議での評価等による成果・効果の検証を行い、持続可能なカリキュラムとなるよう研究開発を進めました。

令和元年度から始まった3年間の活動期間においては、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、1年目の後半から最後までに計画していた海外研修や国際交流等の実践活動は余儀なく中止せざるを得ない状況となりました。この3年間をホップ・ステップ・ジャンプと位置付けて推進していこうと考えていただけに、2年目当初は事業目的、目標達成に向けて暗雲が立ち込めました。しかしこの事業推進にむけて組織した「地域課題研究委員会」が功を奏し、各委員メンバーから適宜最善の改善修正案や新たな取組案が提案され、計画時よりも深く地域との協働による教育改革推進が図られたと感じるところです。また海外研修を国内県内研修に切り替えたことで、海外の最先端知見を得たリーダー生徒による効果は測れなかったものの、逆に多くの生徒が国内研修や地域研修活動に参加したことで、着実にSDG s の視点が生徒の中に浸透・定着したのではないかと考えます。生徒アンケートでは、ほとんどの生徒がSDG s に関する理解や意識があり、達成に向けて何をすべきか、何ができるか等について述べている生徒も多くみられ、心強く感じました。

本報告書は、文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に指定された3年間（平成31年4月から令和4年3月）のうち、最終年として取り組んだ3年目における研究成果をとりまとめたものです。これをもって本事業は終了しますが、この3年間で取り組んだ研究成果を本校教育活動に新たに組み込み、引き続き生徒たちが高い志をもって、新しい時代を切り拓く地域社会のリーダーとして羽ばたいていってくれるよう、継続して伊勢志摩地域において取り組む必要があると考えています。

最後になりましたが、本校の研究に多大なるご支援、ご指導を賜りました関係者の皆様方に改めて感謝を申し上げます。

三重県立宇治山田商業高等学校  
校 長 廣 島 朗



# 「観光都市 with SDGs」～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

- 1 目的：持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成
- 2 目標：「地球市民力」と「未来創造力」を育成するカリキュラム開発
- 3 取組概要



## 地球市民力の育成

グローバルな視野を持ち、持続可能な社会を構築する力  
「課題解決力」、「論理的思考力」、「地域への貢献力」、「語学力」

### 1. SDGs 推進プログラム開発

- ① SDGs 基礎プログラム（教科横断的な視点）
  - ◆ 貧困の根絶（経済・社会開発）と持続可能な社会（環境）の両立や不平等（格差）の是正等について、様々な教科・科目で系統的に学習
- ② SDGs 探究プログラム
  - ◆ 科目「課題研究」において、グローバルカンパニーでのインターンシップ、廃材を活用した商品開発等を実践
- ③ SDGs 語学力向上プログラム
  - ◆ 科目「グローバル・コミュニケーション」において、地球的課題について、ディスカッションやデイベートを実施



家具などの廃棄ごみリデュースプランの開発



## 未来創造力の育成

「地域・世界」「人・もの・サービス」をつなぐ力  
「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「創造力」

### 2. 観光都市を描くプログラム開発

- ① 伊勢志摩PRプログラム
  - ◆ 科目「課題研究」で、コンソーシアムと連携し、SDGsの視点を踏まえた課題解決型学習の実施
- ② 国際交流プログラム
  - ◆ オーストラリア姉妹校との連携を強化（Web会議システム活用、長期留学生受け入れ）
  - ◆ SDGsや観光についての海外研修プログラム作成



様々な国の人と交流し、世界から訪れる人を出迎える観光プログラムの開発



自然と暮らしを繋げるグリーンツーリズムモデルの開発



#### 効果の測定とカリキュラム・マネジメント

- ◆ GROW
- ◆ パフォーマンス評価
- ◆ 生徒アンケート
- ◆ コンソーシアム会議等での評価 等

#### 数値目標

- ◆ 地域の活性化プラン作成本数：3本/3年間
- ◆ 海外と交流を行った回数：3回/年
- ◆ デイバート・ディスカッション等の評価標準作成：5本/3年間
- ◆ 国際的なイベント等への参加回数：3回/年 等

#### 連携協力

- ◆ 皇学館大学文学部コミュニケーション学科
- ◆ 地方自治体（伊勢市等）
- ◆ JA伊勢、伊勢市商店街 等
- ◆ モンバルク・カレッシ（オーストラリア姉妹校）

# 第1章 研究開発実施報告

## 1 研究開発実施報告

### (1) 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

### (2) 指定校名・類型

学校名 三重県立宇治山田商業高等学校  
校長名 廣島 朗  
類型 グローカル型

### (3) 研究開発名

「観光都市 with SDGs」 ～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

### (4) 研究開発概要

#### ア SDGs推進プログラムの開発

##### (a) SDGs基礎プログラム（教科横断的な視点）

各教科・科目（国語、地歴、公民、家庭、商業など）でSDGsに関連する知識を学ぶとともに、SDGsについて造詣が深く生徒への講演や指導、教員研修等を行うことができる者（以下「環境教育アドバイザー」という。）や企業でSDGsを担当している専門家、コンソーシアムの皇學館大学の教授等から、貧困の根絶（経済や社会開発）と持続可能な社会（環境）の両立や不平等（格差）の是正について学ぶ機会を設ける。

##### (b) SDGs探究プログラム

科目「課題研究」において、1・2学年で学習したSDGsの知識を活用し、地域の特産品を使用した商品開発等をとおして、思考力・判断力・表現力を高める探究的な学びを実施する。

##### (c) SDGs語学力向上プログラム

語学力の向上や異文化理解を深めるため、留学生との交流会や校内外の英語スピーチコンテスト等への積極的な参加を推進する。また、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を令和2年度から開設し、SDGsを主テーマに大学生や留学生と福祉、医療、環境等の地球的規模の課題に関するディスカッションやディベートをとおして、英語コミュニケーション力の向上を図る。

#### イ 観光都市を描くプログラム開発

##### (a) 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」において、観光資源（自然・歴史・食文化等）が豊かな伊勢志摩地域を活性化するため、課題研究「観光とビジネス」で、事業所への取材や自治体の「まち・ひと・しごと総合戦略」についての調べ学習をとおして、旅行コンテンツやプランを作成し、JTB観光開発プロデューサーへのプレゼンをとおして「高校生エコツーリズム」の取組を行う。また、海女をテーマにした動画を作成し、観光甲子園に応募、ESS部（みえグローカル学生大使）が伊勢志摩情報発信のSNS（インスタグラム）を定期的に更新する「“山商”伊勢志摩観光大使」の取組を行う。

##### (b) 国際交流プログラム

国内外での国際交流活動を推進し、主体性・積極性等を育成するとともに、観光先進国から、伊勢志摩地域を観光都市として築き上げる手法を学ぶ機会を創出する。

#### ウ 効果測定の開発・検証

##### (a) パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

・ 英語によるディベートやディスカッション等のパフォーマンス、課題研究及び校外における活動に係るポートフォリオを評価するための評価規準を策定する。

##### (b) 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

・ IGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用して生徒の資質・能力の伸びを把握し、各種プログラムの効果を検証する。

##### (c) 外部評価

地域・コンソーシアム等への提言を含めた発表会において、課題研究の成果を地域社会に発信し、アンケート等により外部有識者の評価を受ける。

### (5) 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

・ 学校設定教科・科目	開設している	・	開設していない
・ 教育課程の特例の活用	活用している	・	活用していない



(6) 運営指導委員会の体制

運営指導委員の構成員

氏名	所属・職	備考
高見 啓一	日本経済大学 准教授	学識経験者
矢部 一成	I G S株式会社執行役員教育事業部事業部長	グローバルに活躍する教育分野の企業
北川 雅敏	三重県雇用経済部国際戦略課長	関係行政機関職員
三田 泰久	株式会社アーリー・バード 代表取締役	地域のグローバル企業
井上 珠美	三重県教育委員会事務局高校教育課長	関係行政機関職員

(7) 高等学校と地域の協働によるコンソーシアムの体制

## グローバル人材育成コンソーシアムみえ



コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者
宇治山田商業高等学校	校長 廣島 朗
伊勢市役所	情報戦略局 局長 須崎 充博
皇學館大学	文学部コミュニケーション学科 教授 豊住 誠
伊勢農業協同組合	経営企画部 部長 河井 英利
ULジャパン	人事総務部 部長代理 福村 伝史
海女小屋 はちまんかまど	代表取締役社長 野村 一弘
三重県教育委員会事務局	高校教育課 課長 井上 珠美

(8) カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	三橋 正枝	東北大学大学院環境科学研究科 特任助教	都度依頼
地域協働学習支援員	堀江 しおん	伊勢志摩ビデオサービス(株)役員	都度依頼

(9) 研究開発の実績

本研究開発において、持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、「地球市民力（課題解決力，論理的思考力，地域への貢献力，語学力）」と「未来創造力（企画力，調整力，実践力，突破力，創造力）」を身に付ける「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」をコンソーシアムや地元企業等と連携して実施している。



## ア 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
SDGs講演会等				1回					1回	1回		
各科目の内容に沿ったテーマでSDGsに関する授業を実施	全科目で1回以上実施											
科目「課題研究」において、海女をテーマとした伊勢志摩PR動画を作成	通年											
科目「ビジネス情報管理」で実施した取組を伊勢市長へプレゼン提案										1回		
科目「課題研究」において、地元企業と連携した商品開発	通年											
科目「課題研究」において、観光をテーマに探究活動	通年											
科目「課題研究」において、SDGsを踏まえたビジネスプラン作成	通年											
商業の科目において、コンソーシアム等の地元企業人と交流		2回	2回	4回	3回		10回	6回	1回	3回		
英語セミナー開催				1回			1回					
科目「グローバル・コミュニケーションA・B」においてSDGsの観点に基づいた授業を実施	通年											
校内英語スピーチコンテスト開催										2回		
みえグローバル学生大使活動	通年											
SDGsや観光に関する研修				1回	1回		1回	2回	5回	2回		
オンラインを活用した交流会				1回	1回		1回		2回	2回	1回	
全生徒・コンソーシアム等を対象とした成果発表会								1回		1回		
効果測定の開発・検証(AiGROW)				1回	1回		2回	1回	2回	1回		

## イ 実績の説明

### (a) 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

#### ① SDGs推進プログラム開発

- ・ SDGs基礎プログラムとして、すべての教科・科目でSDGsに関連する授業を1回以上実施した。
- ・ SDGs探究プログラムとして、科目「課題研究」において、SDGsに取り組む企業のオンライン調査や、地域の特産品を使用した商品開発などを実施した。また、SDGsに取り組む企業・自治体での現地研修や、SDGs先進国であるスウェーデンの事例調査をオンラインによって実施した。
- ・ SDGs語学力向上プログラムとして、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、SDGsの観点に基づいた授業を実施した。また、コミュニケーション能力を高めるため、終日英語のみで会話する学年別英語セミナー（国際科）や、校内スピーチコンテストを実施した。

#### ② 観光都市を描くプログラム開発

- ・ 伊勢志摩PRプログラムとして、科目「ビジネス情報管理」において海女をテーマとした伊勢

志摩PR動画を作成し、NEXT TOURISM 主催の「観光甲子園」に応募した。また、科目「課題研究」において、SDGsの理念に基づき自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指した取組を学ぶ探究活動を実施した。さらに、みえグローバル学生大使（三重県雇用経済部国際戦略課事業）の委嘱を受けたESS部生徒を中心に、SNS（Instagram）による三重の魅力紹介や、第2回太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク会議に関連したオンライン交流イベントに参加した。

- ・ 国際交流プログラムとして、7月と8月にオーストラリア姉妹校の生徒とオンラインによる交流を実施した。
- (b) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）
- ・ SDGs基礎プログラム  
全教科・科目で、教科・科目の特性を生かした授業を実践した。例えば、現代社会の諸課題である「地球環境問題」「資源・エネルギー問題」「国際経済の動向と貧困の解消」等についての考察を深めるため、グループ討議や発表を行った。
  - ・ SDGs探究プログラム  
商業科目「課題研究」において、地域の特産品を活用した商品開発や持続可能な社会の実現に向けたビジネスアイデアの考案をした。
  - ・ SDGs語学力向上プログラム  
学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、SDGs基礎プログラムで学んだことを校内スピーチコンテストの場で発表した。
  - ・ 伊勢志摩PRプログラム  
商業科目「課題研究」において、海女をテーマとした伊勢志摩PR動画を作成し、「観光甲子園」に応募した。  
ESS部において、みえグローバル学生大使の委嘱を受けて、SNS（Instagram）を利用した三重県の紹介や、第2回太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク会議に関連したオンライン交流イベントに参加した。  
商業科目「課題研究」において、SDGsの理念に基づき自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用して地方創生を目指した取組を学ぶ探究活動を実施した。
  - ・ 国際交流プログラム  
オーストラリア姉妹校と、オーストラリアから見た日本の印象や生活・文化の違いについてオンラインによる生徒同士の交流を7月と8月に実施した。
- (c) 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について
- SDGs講演会を開催し、生徒・教員ともにSDGsに関連する知識を習得する機会を設けた。また教員は、各教科のSDGsに係る取組を把握し、生徒が身につけた知識を全体で共有したうえで、授業を実施した。例えば、「海洋ゴミ削減」について、理科で合成樹脂に関する実験を行うとともにゴミ処理問題について考えた。国語科では、評論「環境と心の問題」を読み、環境問題や近代の人間観について考えた。商業科では、海洋ゴミの現状や地域の活動に関するWebサイトを制作し、県内の清掃活動についての詳細や参加の呼びかけなどを行った。
- (d) 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制
- 「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、学校に地域課題研究委員会を設置して、生徒が「地球市民力」と「未来創造力」を身に付けられるプログラムの開発・実践のための企画運営を行うとともに、カリキュラム開発専門家や地域協働学習実施支援員（外部人材）を活用し、プログラムの充実を図った。また、伊勢志摩地域を支える人材育成を考える「グローバル人材育成コンソーシアムみえ」を構築し、産学官のスムーズな連携による探究的な学びを実現した。



さらに、本事業の目的や取組の方向性を踏まえた学習活動等が実践できているかを検証するため、運営指導委員会を設置し、効果等の検証を行うことで、事業のPDCAサイクルを構築した。

(e) 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

地域課題研究委員会において、推進担当者を中心に、各プログラム内容について協議を進めるとともに、地域協働担当者や海外研修担当者を校内に設置し、地域と連携した取組や海外研修プログラムを作成した。

(f) カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

- ・ カリキュラム開発専門家は、本事業の学習活動および各プログラムに対して、持続可能な社会の実現に向けた「SDGsの視点」を踏まえた指導・助言を行った。また、そのために地域課題研究委員会へ参加した。
- ・ 地域協働学習実施支援員は、商業科目「課題研究」の授業に参加し、伊勢志摩PR動画作成について指導・助言を行った。

(g) 校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・ 校内の地域課題研究委員会にて、毎週定期的に各プログラム作成の進捗報告や実践報告を行い、具体的な取組の改善策などについて検討した。
- ・ 2月に生徒アンケートを実施して、その成果を検証した。

(h) カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・ コンソーシアム会議にて、今後の取組に関する現状と課題について協議し、意見交換を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた海外研修（スウェーデン：SDGsの先進的な取組を学ぶ、マレーシア：観光資源を活用したエコツアーやグリーンツーリズムを学ぶ）が中止となったため、当初の目的を達成できる国内研修について協議し、意見交換を行った。さらに、次年度以降の地域社会と連携した教育実践の継続実施に向けて、意見交換を行った。
- ・ グローバルワークショップとして、コンソーシアム委員に対して代表生徒がこれまでの取組と今後の計画について中間報告をし、その内容や学びの過程から生じた生徒の疑問について意見交換を行った。

(i) 運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について

- ・ 運営指導委員会において、資質・能力測定ツール「AiGROW」による各種プログラムの効果を検証した結果、3年間にわたる本事業の教育効果が大きいことを共有した。
- ・ 本事業の各プログラムについて、持続可能な体制の確立に向けて協議を行った。

(j) 以下の①～⑥の趣旨に応じた取組について

① 地域の特性を踏まえつつ、グローバルな社会課題・地域の社会問題の解決に向けた学びや生徒のキャリアデザインを促すための取組

- ・ SDGs講演会を開催し、地元企業におけるSDGs推進の取組について学ぶとともに、ディスカッションを行う中でこれからの社会を支える高校生がSDGsにどのように向き合うべきなのかを考える機会とした。
- ・ SDGsの観点から復興とグリーンリカバリーについて学習するため、宮城県東松島市周辺を視察した。また、伊勢市防災センターを見学し、地域における防災について考えた。
- ・ 過疎化地域における地域創生に向けた取組の学習と地域資源を生かしたグリーンツーリズムの研究のため、青森県三戸郡田子町を視察した。また、地元において自然環境を活かしたエコツアーの企画運営を行う企業の視察プログラムに参加し、持続可能で地域の活性化につながるツアーの考え方を学んだ。
- ・ SDGsの理念に基づいた自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用し地方創生を目指す官民の取組を学習するため、鹿児島県沖永良部島を視察した。
- ・ 農業をとおしたSDGsの取組を学習するため、第一次産業（農業）を中心にSDGsを進め

ている兵庫県丹波市の取組を視察した。

② 外国語教育において、地域との関連から英語のコミュニケーション能力を高める取組

- ・ 太平洋島嶼国・日本地方自治体ネットワーク会議に関連したオンライン交流イベントに参加し、英語で伊勢志摩の魅力を紹介した。

③ 外国語教育におけるディスカッション等の主体的な学びを促す取組

- ・ 学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」において、語学力の向上と異文化理解等を深めるため、英語でディスカッションを行った。また、英語のスピーチ原稿等を作成し、校内スピーチコンテストで発表した。

④ 海外の学校との定常的な連携による海外研修等

- ・ 9月のオーストラリア姉妹校生徒受け入れや3月のオーストラリア姉妹校への海外研修は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止としたが、7月と8月にオンライン交流を実施した。

- ・ スウェーデン研修プログラムの開発

SDG sの視点を踏まえた地域リーダーを育成するため、SDG sの理念に基づいた経営をしている企業への訪問や現地の高校生との交流を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。代替として、スウェーデン研修で面会予定だった方と、オンラインでつながりSDG s先進国について事例調査を行った。

- ・ マレーシア研修プログラムの開発

伊勢志摩の基幹産業である観光業等で活躍する人材を育成するため、実際のエコツアー等を体験する研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。代替として、鹿児島県沖永良部島を視察し、自治体の会議での意見交換やフィールドワークを行った。

⑤ 海外からの留学生等と一緒に学ぶ探究的な活動

- ・ オーストラリア姉妹校の生徒と、お互いの国のSDG s取組に関するオンラインで意見交流を行った。

- ・ 「アジア高校生架け橋プロジェクト」としてフィリピンからの留学生を受け入れ、1年国際科クラスで一緒に学んだ。

⑥ 地域への理解を深めるための取組

- ・ みえグローバル学生大使（生徒16名）として、地元小学校における外国語教育活動への高校生ボランティアを企画した。

- ・ 商業科目「ビジネス情報管理」において、伊勢市職員とともに地域の食品スーパーで、買い物客に消費期限や賞味期限が近い食品から購入してもらうよう呼び掛け、食品ロス削減の啓発活動を実施した。

- ・ 商業科目「課題研究」において、地元商品を取り扱う「山商ネットショップ」を開設し、商品選びから商品発送までを実取引により体験した。また、開設にあたりPOPを作成し、地元中学校へのPR活動を実施した。

(k) 成果の普及方法・実績について

- ・ 地域の本事業に係る委員に案内し、1月31日に全学年が参加した成果発表会を開催し、学校全体の活動取組とした。また、「SDG sを達成するために」をテーマに、本事業カリキュラム開発専門家や運営指導委員長、コンソーシアム委員代表、SDG s推進支援協力者と本校生徒代表によるパネルディスカッションを実施し、意見を共有した。

(10) 目標の進捗状況、成果、評価

本事業は、「SDG s推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」の実践により、学習内容の充実が図られ、「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」を生徒に身に付けることを目標としている。

ア 「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」の育成

(a) 地域や企業等と連携した取組やコロナ禍における探究活動等をとおして、「地球市民力」と「未来創造力」が身につけているかを生徒アンケート等により把握する。

指標 (アウトカム)	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
「地球市民力」と「未来創造力」が身に付いた生徒の割合	61.0%	66.7%	67.0%	70%

(b) IGS株式会社のAiGROWを活用した測定

本事業における3年間のAiGROW受験結果(平均値)から、27コンピテンシー中19コンピテンシーの成長に有意性が認められた。また、本事業のキー・コンピテンシーの成長については、実践力と突破力以外に有意性が認められた。実践力については3年間通じての課題となった一方、イノベーションにつながる課題解決力や企画力には特に大きな成長が認められた。

分野	コンピテンシー	2019年7月	2022年1月	差	有意確率(両側)
認知系	課題設定	0.556	0.591	0.03**	0.06
	論理的思考	0.553	0.600	0.05**	0.12
	疑う力	0.570	0.602	0.03**	0.00
	創造性	0.503	0.600	0.10**	0.00
自己系	個人的実行力	0.628	0.583	-0.05**	0.03
	自己効力	0.554	0.606	0.05**	0.03
	耐性	0.584	0.593	0.01	0.62
	決断力	0.586	0.573	-0.01	0.00
他者系	表現力	0.544	0.548	0.00	0.01
	共感・傾聴力	0.604	0.580	-0.02	0.03
	柔軟性	0.564	0.593	0.03*	0.04
	影響力の行使	0.476	0.583	0.11**	0.00
コミュニティ系	地球市民	0.513	0.577	0.06**	0.40
その他	主体性	0.607	0.578	-0.03*	0.00
	協働性	0.515	0.594	0.08**	0.00
	リーダーシップ	0.561	0.586	0.02*	0.00
	イノベーション	0.560	0.592	0.03*	0.03
	批判的思考力	0.557	0.575	0.02	0.00
	創造的思考力	0.554	0.590	0.04**	0.00
	協働的思考力	0.594	0.587	-0.01	0.13
地球市民力	課題解決力	0.556	0.591	0.03**	0.06
	論理的思考力	0.553	0.600	0.05**	0.12
	地域への貢献力	0.513	0.577	0.06**	0.40
	企画力	0.560	0.592	0.03**	0.03
	調整力	0.515	0.594	0.08**	0.00
未来創造力	実践力	0.628	0.583	-0.05**	0.03
	突破力	0.586	0.573	-0.01	0.00
	創造力	0.503	0.600	0.10**	0.00

※ t検定とは、事前と事後の変化がプログラムの効果によるものと仮説を立て、実行したプログラムの有意性を検証した結果  
イ 地元で定着して活躍する地域人材の育成

本事業は、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的としており、地元で就職し、地元で定着して活躍する人材を育成する必要があることから、企業アンケートにより職場定着の状況を継続して把握するとともに、各プログラムに地域の魅力や働くことの意義等について理解する学習内容を反映する。

指標 (アウトカム)	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
地元就職者のうち、高校卒業後に入社した地元企業での職場定着率	76.0%	97.4%	96.6%	80%

※ 各年度の3年前入学生徒の3年間の状況

ウ 語学力の向上

SDGs 語学力向上プログラムにおいて、英語のみを使用する環境を創出するとともに国際交流活動の充実を図ることで、英語コミュニケーション能力の向上及び異文化理解の促進を図る。2020年度から、学校設定科目「グローバル・コミュニケーションA・B」を新設して、英語コミュニケーション



ン力等の一層の向上をめざしている。

指標（アウトカム）	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
卒業時における生徒（200人）の4技能の総合的な英語力としてのCEFRのA2レベル以上の生徒の人数	64人	74人	55人	120人

エ 地域人材を育成する高校としての活動について

グローバルな課題解決のために必要なIT関連の全国大会で2年連続優勝するとともに、コロナ禍で様々な全国大会が開催中止となる中、観光甲子園やエシカル甲子園にエントリーするなど多くの生徒が各種大会に挑戦した。また、本県の「みえグローバル学生大使」として任命されている本校生徒が、地域における国際交流活動やオンラインによる交流を行った。

指標（アウトカム）	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
グローバルな社会又は地域のビジネス課題に関する公共性の高い全国大会等における入賞者数	5.7%	2.2%	3.3%	10%
みえグローバル学生大使として、地域において国際交流活動に参加	29人	13人	21人	120人

オ 地域人材を育成する地域としての活動について

本事業においては、コンソーシアムを構築し、将来の伊勢志摩地域を担う「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成する取組を進めた。「課題研究」や「ビジネス情報管理」「経済活動と法」等の科目において、地元企業や自治体、大学等から企業人等の派遣を受け、学習内容の充実を図ることができた。また、3学年「課題研究」の全ての講座で、自治体や地域の企業と連携した取組を行った。

指標（アウトカム）	2019年度	2020年度	2021年度	目標値
「SDGs推進プログラム」及び「観光都市を描くプログラム」への企業・地方自治体・企業等の協力者数	40人	51人	60人	50人
地元企業でインターンシップ等を体験した生徒の割合	42.0%	61.9%	100%	100%

※ インターンシップ等体験生徒の割合は、卒業時における生徒（200人）の割合で計算

(11) 次年度以降の課題及び改善点

SDGs基礎プログラムにおいて、すべての教科・科目でSDGsに関する内容を扱った。そして、身につけた知識を活用し、SDGs探究プログラムとして、商業科目「課題研究」において商品開発やビジネスプランの作成等を通して思考力・判断力・表現力を高める探究的な学びを実施した。また、SDGs語学力向上プログラムとして、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を開設し、英語での発信力の向上を図った。次年度以降もSDGsの視点による教育活動を継続実施する。

資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定において、イノベーションにつながる課題解決力や企画力には特に大きな成長が認められたが、実践力については3年間通じての課題となった。改善点として、令和4年度入学生より「総合的な探究の時間」を2年次から導入し、継続的な探究活動の展開をすることによって資質・能力の更なる向上を期待する。

本事業において、コンソーシアム委員ほか地域の自治体や企業の今年度協力者数は51人であった。今後も生徒が地域での実習等を行うとともに社会人等が学校において講演を実施するなど、学校と社会の双方で学ぶ仕組は必要である。次年度以降も官民や高等教育機関関係者による継続支援を受けながら教育活動を行うことで、持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダーを育成していきたい。

## 第2章 実施報告書

### 第1節 SDGs基礎プログラム

#### 1 各教科・科目における授業実施

昨年度に引き続き、SDGs基礎プログラムとしてすべての教科・科目でSDGsに関連する授業を1回以上実施した。

科目名	単元名	学科・学年	学習時期	取組内容	目標
国語総合	未来をつくる想像力	全学科・1年	6月	石田英敬の評論「未来をつくる想像力」を学習し、持続可能な未来をつくるために私たちに必要なことは何かを考えることができた。	⑦⑪⑫
国語表現	声とコミュニケーション 会話・議論・発表	商業科、情報処理科・3年	10～12月	自分の将来について発表をした。その中で「会社に勤めること」と「会社を経営すること」の良い点悪い点について考え、お金を儲けることと社会貢献のバランスなどについて話す生徒もいた。	⑧⑨⑩⑫
国語表現	会話・議論・発表	国際科・2年	10～11月	ワークを通して情報共有や情報伝達、意思決定のプロセスを体験した。 「一人での解決は不可能なことも、複数人であれば解決に近づくこと」や「双方向にコミュニケーションを取る大切さ」などに気づくことができた。	④⑪⑰
現代文B	評論「新しい地球観」	全学科・2年	9～10月	現代文Bにおいて宇宙飛行士の毛利衛氏の文章である「新しい地球観」を学習した。未来に豊かな環境を残していくためには、自国中心の価値観を変えて行く必要がある。宇宙から見た地球を例に挙げ、オーサグラフという新しい地図を用いながら「世界は一つに繋がっている」という視点を学んだ。	⑪⑫⑭⑮
現代文B	評論「人はなぜ働かなくてはならないのか」	商業科、情報処理科・3年	1学期 6月	およそ一年後に社会に出て働く人も出てくることを意識し、「なぜ人は働くのか」ということを全員で考え、共有した。また、内容を通して、人が働く理由は、一人の人間として、社会的人格としてのアイデンティティを認められるからだというを確認し、「働く理由」を再考するきっかけを作った。	⑧
現代文B	評論1	全学科・3年	4～5月	文化の違いについて、「他文化を自文化と比べたときに異質で特殊なものとして捉えるのではなく、そこに存在する普遍性をみつけていくべきである」という主題の評論文を読解した。その後「人間」「日本人」「高校生」の普遍性は何かというテーマで考えを深めた。	⑩⑬⑭⑮⑰
現代文B	評論2	全学科・3年	6月	「人は社会的な生き物であるから働く」という主題の評論を読解した。人が働くためには、他者の存在が不可欠であるということに気づくきっかけとした。	⑧⑩⑰
現代文B	評論「環境と心の問題」	商業科、国際科・3年	11月	「環境問題の根本には近代科学の自然観がある」という主題の文章を読み、環境問題や近代の人間観について考えた。地球の生態系は循環的に相互作用して存在しているにもかかわらず、自然を分解的に捉える人間の考え方が環境問題を引き起こしているという筆者の主張に触れた。	⑤⑦⑩⑪⑫⑬⑭⑮
世界史B	ギリシア世界	情報処理科・2年	5月	地中海世界で文化圏を形成したギリシアの風土とギリシア人の生活を学び、なぜこの場所で国家が形成されたのかを気候や農耕、人々の生活の面から考察した。また、国家の発展の過程を学び、なぜ国家が衰退してしまったのかを生活・政治の両面から考察した。	⑨⑩⑬⑭⑮⑰
世界史B	封建社会の衰退	情報処理科・2年	12月	封建社会における農奴と領主の関係の変化や封建制度の崩壊について東寺の社会環境や政治的関係を学び、考察した。また、封建社会の崩壊の原因の一つとしてペストのパンデミックがあったことを学び、現代における新型コロナウイルスのパンデミックと比較・検討し、パンデミックが起こった場合の行動や感染防止についてグループワークで討議した。	③⑧⑩⑮
日本史A	江戸時代後期の産業・都市 商業・教育	国際科・3年	5月	江戸時代後期の新たな産業・農業・漁業や都市の経済の様子を知り、現代の産業・経済と関連して生活の向上や商品生産向上のための取り組みを学ぶ。また、当時の教育について武士・庶民の両面から学び、武士だけでなく庶民にも広く教育が行き渡っていった過程と学ぶ意欲の向上について現代と関連して学習した。	④⑧⑨

日本史 A	地租改正と殖産興業	3年国際科	11月	明治期における新しい産業の導入と国の財政基盤の確立、北海道の開拓について学び、新しい産業によって起こった社会変化や現代の産業社会との比較を行った。また、北海道開拓に関わった人々のくらしや先住民アイヌとの関係やアイヌに対する同化政策・差別について考え、意見交換をして考察した。	⑧⑨ ⑩⑪ ⑬
日本史 B	弥生時代の社会と文化	商業科、情報処理科・3年	5月	水稲耕作が日本にもたらされたことで狩猟・採取生活から農耕生活への変化とそれともなう社会の階層化を学び、農耕開始時の様子や現代の農耕と比較して変わったところ・変わらないところを考察した。また、なぜ農耕が始まったことによって身分の変化や社会の変化が起こったのかを考察した。	⑨⑪ ⑬
日本史 B	奈良時代の社会と政治	商業科、情報処理科・3年	10月	奈良時代の農民の税負担の厳しさと生活について学び、それに対する国のとった施策について学んだ。貧困による浮浪・逃亡や天然痘によるパンデミックの発生が頻発したことを踏まえて、現代の新型コロナウイルスによるパンデミックに対処するにはどうすればよいのかを考え、意見交換をして考察した。	③⑧ ⑩⑬
地理 A 地理 B	堆積平野	国際科・3年 商業科、情報処理科・3年	5～6月	昔の人々が、住むのに便の良い（豊水地域・食糧確保可能地域）ところ、災害から身を守るところを選んで集落を立地させていたことに関連して、現代の便利になった生活との比較を通して、「現代の生活になくてはならない物」と「なくてもやっつけられる物」について考える。	①② ③⑥ ⑦⑧ ⑨⑪ ⑬⑭ ⑮
地理 A 地理 B	アジアの地誌	国際科・3年 商業科、情報処理科・3年	10～11月	アジア各地域の近現代における変遷を学ぶことで、貧困や飢餓の克服、産業や経済の成長、さらに人権、環境、経済協力など、さまざまな分野において進展してきた経緯を知り、また現在のスピード感のある環境の変化を実感することで、1～17の視点について重要性を理解し、考える一助とする。	①～ ⑬
現代社会	少子高齢化	全学科・3年	4～5月	少子化と高齢化に関する小論文を作成する際、原因・現状・背景・対策を学ぶ中で、高齢化対策としての制度は誰もがよい生活を送れるようにという観点を多角的に学習した。少子化についても安心して子育てができ、子育てがしやすい国づくりを学習した。	①② ③④ ⑧⑩ ⑪⑬
現代社会	地球温暖化対策、脱炭素社会	全学科・3年	6月	地球温暖化の対策全般で、クリーンなエネルギーの開発や利用を学ぶ中で、脱炭素社会に向けて「水素」が注目度を浴びており、その技術革新について学び、自分の意見をまとめた。	⑦⑧ ⑨⑬
現代社会	ベーシックインカム	全学科・3年	6月	ベーシックインカムについて学び、貧困対策の政策として賛成、反対、それぞれ意見をまとめた。	①② ⑩
現代社会	SDGsで取り組む世界の課題	全学科・3年	6月	SDGsの成り立ちや今後の課題について学んだ。その後、自分の暮らしとSDGsの課題の何かを結びつけて、それに対する対策・解決策をまとめた。	①～ ⑬
現代社会	競争戦略	全学科・3年	9月	経営計画の戦略について学んだ後、「地方の温泉旅館が生き残るための戦略について、あなたの考えを述べよ」というタイトルで小論文を作成。事後に行った論文を共有する場面で、地方の特性、伊勢志摩の海などについてふれた生徒の文章について、意見交換をした。	⑪⑭
現代社会	ドバイのリモートワークビザ	全学科・3年	9月	コロナ禍でリモートワークが広がる昨今、UAE政府がドバイでリモートワークビザを導入することで、高所得者の移住者を増やし余暇活動を含めた働きがいを良くし、またドバイの産業の発展と経済成長に繋げている、という内容。	⑧⑨
現代社会	アフガニスタン情勢とその原因・背景	全学科・3年	10月	アフガニスタンで起こった20年にもわたるアメリカの軍事介入。元をたどれば、パレスチナ問題が背景、2001年の同時多発テロが直接の原因である。宗教対立ではなく、人の違いを認められる社会となることを願う世の中になれば、という視点。	⑩
現代社会	新聞を読む（テーマ「COP26」）	全学科・3年	11月	地球温暖化防止会議の数日間の記事をテーマに新聞記事の読み方を学んだ。また、1991年の地球サミットからの温暖化対策の流れも復習した。	⑬
現代社会	ディベート（テーマ「制服は必要か不必要か」）	全学科・3年	11～12月	ディベート下準備の段階で、ジェンダーフリーの制服について意見が出てきた。	⑤



数学 I	2次関数の最大値・最小値	情報処理科・1年	10月	定義域におけるグラフの最大値・最小値の学習の中で、日本の次に1年間の最高気温の変化を表す黒板に記入させる。範囲を決めれば最大値、最小値が決まるという学習の中と問う。中3の・・・と答える。私の人生の中でいちばん暑かったのは、「子どもの頃はなかった」と伝え、温暖化が進んでいることとの話題に触れ、さらに地域を限定すれば、南極など最高気温が変化していることを伝える。私が生きてきた50年でもこんなに温暖化が進んでいる。勉強しているSDGs 学習の大切さにふれた。	⑬
数学 I	三角比	全学科・1年	12月	三角比から、ある島の標高を求めた。海面上昇によりなくなってしまう島国があることを学んだ。	⑬
実用数学	確率	全学科・3年	2学期後半	授業の中で男子○人、女子○人が一列に並ぶ・・・という問題が多く出題されている。この問題を扱う中で男子女子の表記は今後どうしていくべきかを問いかけた。この問題の1文ですら、心を痛める仲間がいるかもしれない事に気づいていこうと授業の中で、雑談としてふれた。	⑤
科学と人間生活	材料とその利用	全学科・3年	11月	身近にある合成繊維であるナイロンや合成樹脂である尿素樹脂を実験で作ることにより科学技術の進歩により人間生活が便利になったことを感じさせるとともに、現在、プラスチックの大量生産により起こっている問題（ゴミ処理の問題や海洋汚染の問題など）についても考えさせる。	⑫⑭
科学と人間生活	化学反応	全学科・3年	11月	クリーンエネルギーである水素はエネルギーを放出する際に水だけが出来ることを化学反応式を使いながら説明し、石油や天然ガスとは全く異なることを理解させ、将来のエネルギー問題や気候変動問題について考えさせる。	⑦⑬
生物基礎	生物の多様性と共通性	全学科・1年	4～5月	真核細胞と原核細胞の観察を通し、身近に生息するインクラゲが、食用に利用できないか、砂漠の緑化のために利用できないか、二酸化炭素の吸収源としてクリーンエネルギーの開発などの研究が行われていることを知り、身近なものでもたくさんの問題に役立つ可能性があるということを考える機会を設ける。	②⑦⑬
保健	私たちの健康のすがた	情報処理科・1年	4～5月	私たちの健康のすがたを正しく理解していく上で、わが国の健康水準、社会経済の発展から栄養状態や生活環境の衛生状態の改善、生活の質（QOL）などを理解することにより、学習を進めた。グループを作り、ディスカッションにも取り組んだ。	③⑥⑧⑪
保健	現代社会と健康	商業科・1年	5月	健康の成り立ちにかかわる要因には主体要因と環境要因があるが、例えば温室効果ガスの排出増加で地球温暖化が更に加速し、自然環境が破壊されたりわれわれの健康は成り立つのかを考える。また保健医療サービスの発達していなかったらどうなっているのかも考える。	③⑪⑬⑭⑮
保健	加齢と健康	全学科・2年	6月	加齢にともなう心身の変化を理解し、また中高年期を健やかに過ごすために大切なことを私生活や福祉に触れながら学習した。	③
保健	高齢者のための社会的取り組み	全学科・2年	6月	保健・医療・福祉の連携についてや、ノーマライゼーションの考え方のもと、バリアフリーやユニバーサルデザインなどに配慮したものや施設の整備等の社会的取り組みに触れながら学習した。	③⑩⑪
美術 I	彫刻（レリーフ）	商業科・1年	1月	木くずなどの廃材を加工して作られた木材を使って、レリーフ制作をする。	⑪⑫⑬⑮
書道 I	中国書道史	商業科・1年	6月	龍門石窟などの世界遺産やその土地に生息する生き物について話をし、文化遺産・自然遺産について考える。	⑥⑪
コミュ英語 I	Lesson 6 「和食」の発展学習)	商業科、情報処理科・2年	5月・6月	教科書でユネスコ無形文化遺産について学んだのをきっかけに、SDGsの視点に立ち、世界無形文化遺産から私たちが今後の社会のために生かせることを学ぶ調べ学習を行い、レポート作成。また、グループ発表を行う。	①～⑰
コミュ英語 I	Lesson 1 A Story about Names	商業科、情報処理科・1年	5月初旬	ミャンマー人には名前がないという話題が本文で出てきた際に、ミャンマーで現在起きていることと、それについてどう思うかをペアで話して、発表させた。	⑩⑯

コミュ 英語 I	From Landmines to Herbs (地 雷からハーブ へ)	商業科、情 報処理科・ 2年	6月	篠田ちひろさんがカンボジアで地雷を除去した土地にハーブを栽培し、ハーブ入りのせっけんやハンドクリームを製造するビジネスを立ち上げるにより現地の雇用拡大に貢献したという教科書本文を読んだことをきっかけに、国際ボランティアについて考え、また、平和について話し合った。	①⑧ ⑨⑬
コミュ 英語 I	Lesson 2 Curry Travels around the World	国際科・1 年	6月下旬	カレーの歴史についての読み物を扱い、まとめの活動として、A Recipe for SDGs ~ Preventing food waste (SDGs レシピ～食品ロスを防ごう～) というテーマのもと、オリジナルのカレーレシピをグループで作し、英語で発表を行った。スイカの皮を使ったカレーや野菜くずをスープに使ったカレーなど実際に可能であるアイデアが発表された。	⑫
コミュ 英語 I	Lesson 4 Hospital Art	商業科、情 報処理科・ 1年	2学期 後半	nurse という単語が本文中にあり、昔は「看護婦」という呼び方で女性の職業という見方であったが、今は「看護師」という名称で性別によらず仕事に就いているということに着目させ、このような名称の変化は他にもあり、英語でも political correctness という動きとしてあることを紹介した。	⑤
コミュ 英語 I	Lesson 9 セサミストリ ート	商業科、情 報処理科・ 2年	11月	セサミ・ストリートは米国公民権運動の時代背景の中で生まれ、様々な人種や民族の登場人物が個性豊かなモンスターと幸福に共生する世界を描き、多様性と平等の大切さを子どもに教える番組であるという主旨の教科書本文を読み、公民権運動について知っていることとペアで話し合ったり、三重県の地元で暮らす外国人と仲良く暮らすにはどうすればよいかをクラスで考えたりした。	③④ ⑤⑩ ⑮
コミュ 英語 I	Eco-tour in Yakushima	国際科・1 年	11月 12月	「世界遺産屋久島とエコツアーについて理解する。屋久島の地理や気候について理解すると共にいくつかのスポット（白谷雲水峡・ウィルソン株・縄文杉）について読み進め、それぞれの場所でのどのような環境への配慮がされるべきかなど、それぞれの考えやその理由を共に詳しく話し、口頭で伝え合った。また、そのやり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して、文章を書いた。さらには、日本でエコツアーのガイドとしてツアー前にオリエンテーションを行うという設定でプレゼンテーションを行い、自分自身が考えるエコツアーとは何か、そのツアーでの見どころと環境等への配慮について理由や根拠とともに伝えた。	⑬⑭ ⑮
コミュ 英語 II	Lesson 1 I'm the Strongest!	国際科・2 年	4月・ 5月	国枝慎吾が病気により障害を負ってから車いすテニスを始め、選手としてのスランプを乗り越えてやがて日本一、世界一の選手になっていった奮闘記録を読み、夢や目標を持って努力する意義について考えた。また、生徒自身が落胆したときに励まされた言葉についてペアワークを行い、励まし合い助け合うことの大切さを学んだ。	③⑩
コミュ 英語 II	Lesson 8 江戸：持続可 能な社会	国際科・2 年	11月	江戸時代の人々は紙や布を徹底して再利用・再生利用し、人糞も肥料として有効利用していたという主旨の教科書本文を読み、各生徒がごみを減らすために日頃から実践していることを話し合った。また、教科書に登場する鋳掛け屋や古着屋など、江戸の循環型社会を支えた10種類の職について各自でウェブサイトで調べ、江戸時代からタイムスリップしたという設定で役を演じ、仕事の内容及び社会で果たす役割や意義を英語で話す活動を行った。	⑧⑨ ⑪⑫ ⑬
コミュ 英語 III	Lesson 5 Bilingualism Lesson 10 Extinction of Languages	国際科・3 年	11月	英語という国際語の使用者数が年々増加していく反面、マイナーな言語が毎年消失しているという。経済的に大きな影響を持つ国で話されている言語がますますパワーを持ちつつある現状の問題点を考え、言語とアイデンティティ、少数言語の保護、世界の平等についてクラスでディスカッションした。	⑩
G・コ ミュ A	Lesson 1 My name is Michael Smith	商業科・1 年	5月上 旬	国際的な場面での自己紹介スピーチでリスニング活動を行った。プラスアルファの活動として、English Idiom である "Don't judge a book by its cover" (物事を外見で判断してはならない) を導入し、どのような状況で使われるかペアで話し合い、人種差別問題についても触れた。	⑯

実践英語	Unit 8 Supermarket	商業科、情報処理科・3年	5月	単元の内容がスーパーマーケットと食べ物だったので、それらとSDGsの関係について考察する授業を行った。スーパーによるフードロス対策、環境保護への貢献、高齢者や障害者らに対する施策などを紹介し、その活動がSDGsのどの目標に合致しているかを考えさせた。また、直接の関係はないが、コンセプトが共通していると思われるスローフード運動やフェアトレード商品などについても触れた。	②③ ⑧⑩ ⑪⑫ ⑮
実践英語	10. Cities	商業科、情報処理科・3年	2学期 10月	SDGsの先進国と言われているスウェーデン、フィンランド、デンマークが行っている取り組みから、面白い話題を1つずつ取上げて紹介した。	⑤⑦ ⑪⑫ ⑮
実践英語	Unit 2 Daily Activities	商業科・2年	6月	単元のタイトル通り、自分たちの日常生活で行う活動の中で、目標を達成するために毎日コツコツ続けられることを4人グループで英語で話し合っただけでなく、一人一つ書く、黒板にそれらを貼ってシェアする。目標達成シートを準備したのでそれに自分が夏休み中毎日コツコツできることを書かせてそれを日記にするという宿題につなげた。(チームごとに、1つのゴールを選択させた)	①～ ⑰
実践英語	Unit 2 Daily Activities	商業科、情報処理科・2年	7月	How green are you? という自分がどれほど地球環境を守るためにエコフレンドリーな活動ができていたかの調査をプリントを通しておこなった。(ペアワークで難しい単語の共有をした。ペア同士ポイントを数えて自分のエコフレンドリー度を知る)	①～ ⑰
実践英語	Unit 6 Downtown	商業科・2年	期末テスト後	気候変動の種類(英語名)をスモールトークにてペアでいくつか出し合う。発表して、それを改善していくために自分たちに何ができるか話し合う。そこで出た意見をみんなで共有した。そしてハンドアウトを用いて、環境を良くしていくための英語クイズを行った。	⑬
G・コミュB	発展学習	国際科・3年	6月	テーマ学習及びプレゼン。4人組みで10班作り、班ごとにSDGsのゴールを一つ選び、日本及び世界における問題の具体例、データを収集・整理し、「問題解決のために社会は何をすべきか」と「高校生は問題解決のために何ができるか」をまとめ、google スライドを用いてプレゼンテーションを行った。	①② ④⑤ ⑥⑩ ⑫⑬ ⑭⑮
G・コミュB	Lesson 9 選挙権と被選挙権	国際科・3年	9月第1週～4週	若年層の選挙投票率の低下の問題について、若い人が政治や選挙に関心を持つようにするにはどうすればよいか考え、ペアで話し合った。関連して、被選挙権年齢の引き下げやオンライン投票のメリット・デメリットについて自由に意見を述べ合った。また、教員からは、明治憲法下の制限選挙について触れ、性別や納税額にかかわらず全ての人に等しく選挙権・被選挙権が保証されていることの正当性・重要性を話した。	⑤⑩ ⑯
G・コミュB	SDGs	国際科・2年	6月下旬	SDGsの17個の目標それぞれについて書かれた英文を、各グループに割り当て、グループ毎に内容をしっかり理解し、全体にプレゼンを行なった。また、17の目標のうちもっとも興味関心のあるものについて、英文ライティングを行なった。	①～ ⑰
G・コミュB	Part 2 Lesson 7 Eating habits for a Better Life	国際科・2年	4月・5月	健康に関する英語の基礎表現を学んだ後、「緑茶が健康維持にもたらす効果」を読んだ。さらに、各自がテーマを決めて調べ学習を行い、「健康維持のためにやるべきこと」を提案するパラグラフを英語で書いた。	③
コンピュータ・LL演習	Unit 7 Weather (天気・気候)	国際科・2年	6月	温暖化や気候変動によりアラスカで問題視されている自然現象についてビデオ学習を行った。また、生徒自身が生活の中で気がついた温暖化や気候変動による影響、その現象の進行を少しでも緩やかにするために何ができるのか、ペアで話し合った。最後に、「How green are you?」(どれくらいあなたは環境に優しいですか)というテーマのもと、英語でのクイズに答えながらそれぞれがどれくらい環境について意識して生活をしているのか、今後どのようなことに気をつけて生活すべきかを考えた。	⑪⑬ ⑭⑮
ビジネス実務	Unit 4 Getting around	国際科・1年	2学期前半	街を移動する手段について学ぶ際に、環境を考えた移動方法ということで注目されているBikeshareやCar Sharingについて学習した。また、我々が抱える環境問題について、自分たちにできることを考えた。	⑦
ビジネス実務	Unit 4 Weather (天気・気候)	国際科・2年	6月	温暖化による気候変動がアラスカの生物や地形、人々の生活に及ぼしている影響をまとめたビデオを見て、温暖化及び気候変動の問題について意見交換をした。	⑬⑭ ⑮



ビジネス実務	ディベート	国際科・3年	5月13日	環境問題について考えるため「Stores should not provide plastic bag.」について、グループでディスカッションを行なった。	⑬⑭
家庭基礎	衣生活	情報処理科・国際科・2年	10月	安価な衣類の生産構造を知り、地球人としての行動を考える	⑫
家庭総合	青年期と家族	商業科・2年	5月	明治民法と現行民法の比較において、「家制度」や「性別役割分業」について考えさせた。その流れで私たちの生活に根強く残るジェンダーバイアスについて触れ、日常生活に潜むジェンダーに気づくことが大切であると伝えた。また家族を取り巻く問題としてDVや虐待などについて触れた。	③④ ⑤⑩ ⑯
家庭総合	衣生活	商業科・2年	10月	衣生活分野で、エシカル消費について考える機会を設けた。日本の輸入浸透度が高いこと、縫製は人件費の安い諸外国に依存し、その国は栄養不足人口が高い国であることなどを確認した。買い物は投票であることを伝え、発展途上国の国々の生活改善のためにフェアトレード商品を買う、オーガニックコットンに目を向けるなど、自分たちができることを考えた。	①② ③④ ⑧⑨ ⑩⑫ ⑯
家庭総合	食生活	商業科・3年	11月	栄養学分野で、日本古来の調味料や食材の加工品について、原材料はほぼ輸入品に頼っていることに触れた。また輸入が止まった場合の日本の食事について一日三食の献立例を挙げて確認をした。	①② ③⑧ ⑩⑭ ⑮⑯
ビジネス基礎	ビジネスで必要な心がまえ	商業科・1年	4月	「人と人とのつながり」チームワーク、協調性に心がける内容からコミュニティの大切さを取り上げた。「技術やアイデアを生み出す」フードロス問題やプラスチック問題を挙げた。	⑫⑰
ビジネス基礎	経済活動の基本的な考え方	商業科・1年	4月	「生産要素には限りがある」・・・「生産要素の希少性」から地球全体の限られた資源について触れた。	⑪⑬ ⑭⑯
ビジネス基礎	4章企業活動の基礎 1 ビジネスと企業	情報処理科・1年	4月中旬	企業の目的を学習する単元となるため、経営理念や行動指針の説明において、文中では「SDGs」の表記はないが、ビジネスにおいて達成したい理念や目標を考える上で、基本理念として「SDGs」の考えが必要であることを話した。	⑦⑧ ⑨⑫
ビジネス基礎	3章1の4、ものの生産者の動向	国際科・1年	2学期	ものの生産に関連して、日本で古来より行われてきた「捕鯨」について取り上げる。「商業捕鯨の是非」というテーマでディベートを実施する。このテーマは、いわゆる「動物愛護派」と「伝統的食文化尊重派」との対決の構図から地球環境問題について考えさせるものとする。 手順①、事前に生徒にアンケートをとり、商業捕鯨賛成派・反対派・中立派にグループ分けをする。 手順②、賛成派・反対派それぞれのグループの中で代表の生徒を互選する。 手順③、代表の生徒同士で自分の意見を主張し合い、討論してもらう。 ※討論後、参考資料として新美南吉原作の紙芝居「くじらのしま」を鑑賞する。また、「鯨一頭七浦潤う」という格言を紹介し、その意味を考えさせる。	⑩⑭
ビジネス基礎	3. 小売業 小売業の動向	商業科・1年	9月～10月	「街づくりと小売業」において、「住み続けられるまちづくりを」をテーマにまちづくり三法についてグループ学習、調べ学習を行なった。	⑪
ビジネス基礎	5. 物流業	商業科・1年	9月～10月	物流業の活動において、物流業でのITが進んでいることをテーマに調べ学習を行なった。	⑨
ビジネス基礎	雇用	商業科・1年	11月	障がい者雇用について考える。視聴資料「BS朝日 パトタッチ はじめていますSDGs」	⑧⑩ ⑰
総合実践		商業科・3年	10月末	帳簿や小切手、手形など作成していく中で早とちりや簡単にミスする生徒が多くなっている。紙は貴重な資源であることを話し、説明をよく聞き慎重に正確に記入できるよう求めた。また、デジタルへの移行についても話をした。	⑫
ビジネス実務	計算の基礎  タッチメソッドの練習	商業科・1年	1学期～2学期	隣の生徒同士で協力し合いながら、個々の力を高める。小テストの答え合わせをして、お互いの強み・弱みを把握し、弱みを減らしていく努力をする。最終的に、クラス全体の質を高める。速度練習の課題分で、SDGsに関する文章にふれ、考える時間を持つ。	①～ ⑰
ビジネス実務	ビジネスマナー	国際科・3年	6月	生徒の興味・関心のある各国のビジネスマナーについてインターネットを活用し、各自発表をおこなった。	④⑤

ビジネス実務	ディベート	国際科・3年	10月	「コミュニケーション」について、ディスカッションやディベートといった議論を繰り返し、自分の意見を主張することや他者の考えを尊重する大切さを学んだ。	④⑱
ビジネス実務	文字入力練習	商業科・1年	～12月	パソコンでの文章入力練習でいろいろな課題文で17の項目に触れる内容を考える。	①～⑱
マーケティング	現代市場の特徴	商業科・2年	1学期	技術革新、生産力の増大、マーケティングの発展により国民の生活は豊かになったが、開発や公害による環境破壊なども起きている。その中で消費者は省エネ・省資源のための節約、資源リサイクルのための分別など環境に配慮した商品を常に選んで購入していくことをグリーン購入という。日常生活のなかで、生徒ひとりひとりがどんな意識を持って取り組んでいるか。また他の人の意見を聞くことさらに環境のことを考えた消費生活をおくれるようにする。	⑦⑧⑨⑪⑫⑬⑭⑮
マーケティング	第1章の1-2消費の動向、「過疎化」	商業科・2年	6月18日(金)1限目	地方の過疎化の問題に関連して、「買い物弱者」について考える。①生徒への問いかけQ1. 地方が過疎化したとき、困ることは何ですか。Q2. 軽トラックを使った移動販売をする場合、どのようなコストがかかりますか。移動販売に関するDVD(2017年11月14日、NHK教育テレビ放送、「人生デザインU-29「移動販売」」)を鑑賞し、感想文を書く。	②⑩⑪⑬
マーケティング	小売価格政策	商業科・2年	2学期	価格戦略の小売価格政策を学習する際に、企業が最初につける価格と消費者が買いたくない価格について学習すること企業が当然赤字は出たたくないが、売れ残り処分するために、どのような価格政策を行い対応しているかを考える。	①②③⑦⑧⑩⑪⑫
ビジネス経済応用	新しいビジネスチャンスの発見	商業科・2年	6月	新しいビジネスチャンスの発見という単元で、新しいサービスは何でもかんでも作ったらいいというわけではなく、新しいサービスを作る人には作る責任があり、そのサービスを使う責任もあるのだと授業内で伝えた。	⑫
ビジネス経済応用	第1章サービス経済化サービス産業2節サービス産業の現状	商業科・2年	5月中旬	経済・社会の変化や人々のライフスタイルの変化に伴う、新しいサービスが登場する現状の説明において、ニーズの変化に的確に対応することが大切であり、社会のニーズの中には「SDGs」の観点が必要であることを話した。	⑦⑧⑨⑫
簿記	簿記の基礎	情報処理科・1年	4月	ワーキングプアや非正規雇用が増加傾向であることに触れた。	①⑧⑨
簿記	証ひょう	商業科・2年	11	一般的に伝票や請求書などの証ひょうは、紙ベースで取引されていることを説明し、使用されている資源を少しでも抑えるにはどのように取り組めばいいのか考えさせた。データ化や二次元コードを普及させるなどの回答が得られた。また、使い古した問題集の再利用についても資源の消費の方法に触れながら考えさせた。	⑫
財務会計Ⅱ	会計基準の国際的統合	情報処理科・3年	5月	日本の会計基準と世界の会計基準とを比較し、会計処理によって、提供される財務情報に違いがあり、そのメリット・デメリットについてレポートにまとめる活動をおこなった。	⑧⑱
財務会計Ⅱ		商業科、情報処理科・3年	12月1月	公認会計士さんによる納税についての講話 税務署によるパソコンを使った申告について実習を行う。	④⑪
財務会計Ⅱ	減損会計	情報処理科・3年	10月	減損会計の学習の中で、各国の会計基準を比較し、財務諸表に計上する観点が異なることで、表示される利益額に違いが発生することを理解した。	④⑱
原価計算	仕損	国際科・2年	5月	製品の加工に失敗し仕損品となった場合でも、仕損品には原価がかかっていることを学習し、「つくる責任」について触れた。	⑫
原価計算	副産物	商業科・2年	6月中旬	本来捨ててしまうものを商品として販売する。それは儲けようと思うだけでなく、もったいない精神でもあり、新たな商品の開発にもつながっている。	⑫
情報処理	キーボード入力・情報機器の扱いについて	情報処理科・1年	4月	ネット室のキーボードの調子が悪かったり、中間モニタの映りが悪かったりしたときに、買い替えるのは簡単だが、ディスプレイを直したり、ケーブルを変えたりすることで使い続けることは可能である。使えるものはできるだけ長く使っていく意識が大切であることを伝えた。	⑫
情報処理	速度練習、文書作成	国際科・3年	4月、5月	速度練習や文書作成に使用した課題文をもとに、「17の目標」のいずれかに触れて、考えるきっかけを作る	①～⑱



ビジネス情報	KJ法、SWOT分析、PPM分析	情報処理科・2年	4月	働き方やより良い会議の進め方に触れた。	⑧⑰
ビジネス情報管理		情報処理科・3年	随時	伊勢市の課題を解決する提案を考える上で、伊勢市の「SDGs」への取り組みを説明すると共に、提案内容の基本には「SDGs」の観点を含めて取り組むようにしている。	①～⑰
ビジネス情報管理		情報処理科・3年	～12月	グループごとに伊勢市の課題を見つけ、17の項目から自分達が選んだ課題についての解決方法を考えて発表する。	①～⑰
情報概論	コンピュータのしくみ	情報処理科・1年	5月	データ構造の中で「キュー」の説明を行った。「キュー」は先に入ったデータが先に出てくる、という意味であるため、スーパーやコンビニの商品陳列を例に説明を行った。その際、陳列されている商品の後ろから(賞味期限の長い方)からとっていく人もたくさんいると思うが、自分にとって必要な期限のものをとっていき方がよくないか？その方が廃棄される商品も少なくなっていく。という話をした。	②⑫

## 2 SDGs 講演会

本校では地域との関わりを持った様々な取組を行ってきた。しかし、まだまだ生徒は地域のことを知らないと本事業の取組を通じて感じた。そこで、今年度のSDGs講演会は、地元企業の方を講師に招き、企業におけるSDGs推進の取組について講演をいただくことにした。また、学年や学科の枠を越えてグループワークを行い、まとめとして生徒が講師とディスカッションを行う中で、高校生がSDGsにどのように向き合うべきなのか、全体で意見を共有した。

日時 7月12日(月) 5・6限目  
 場所 宇治山田商業高等学校各HR教室  
 講師 河田フェザー株式会社 SDGs推進室 室長 黒田 健



講演会の様子



意見交換の様子

生徒の感想は以下の通りである。

- ・日本全体におけるSDGsの認知率が50%以下であるということにとっても驚いた。その中で、三重県は全国2位だったので嬉しく感じた。SDGsの目標の内1～2個のみに取り組む企業が多い中、河田フェザーは多岐に渡った活動で多くの目標に同時に取り組んでいることを知って、感銘を受けた。(3年生)
- ・自分たちが使っている羽毛布団はアヒルや鴨、ダチョウの命を頂いてできていることを知った。食肉を取るときに出る副産物で羽毛を取っていて、それが無ければ羽毛はごみとして処理されるということに驚いた。本来なら捨てられるものを有効活用しているのはとてもいいことだと思う。(2年生)
- ・三重県が知っている率が2位なので、三重県からSDGsを広めていきたいと思った。二見浦ビーチクリーンがあるということは、ゴミが出ているということだから、やることはいい事だと思ったけど、それ以前にゴミを削減していきたいと思う。(2年生)
- ・SDGsは1つの問題を解決することができると、それに関する他の目標の達成に繋がるのだと知り、少し驚きました。私は、1つの問題につき1つの目標が対応しているのだと思っていたので、間違った認識が変えられて良かったです。(1年生)



### 3 SDGs 教員研修

2019年度から3年間、SDGs 基礎プログラムとして教員間で協議しながら各教科・科目でSDGsに関する授業を実施してきた。事業最終年度である今、あらためてSDGsについて基本的な知識を学ぶため、2030SDGsカードゲームを用いた教員研修を行い、授業の評価・改善につなげることにした。

日 時 令和3年12月1日(水) 13:00~15:00  
場 所 三重県立宇治山田商業高等学校 会議室  
講 師 イマココラボ公認ファシリテーター 深津章文



研修の様子

参加者の感想は以下の通りである。

・「意識をすれば行動が変わる」という言葉を聞いたことがありますが、それを肌身で感じることができてよかったです。

・SDGsを難しく捉えていましたが、SDGsを意識して普段の行動を少し変えるだけでも、SDGsに関わっている見本になれるのかなと思いました。

・このカードゲームは、ぜひ全校生徒にも体験してもらいたいと思いました。学科単位で行って、それぞれの結果の違いが出たらそれを全ての学科で共有してみるのもおもしろいかなとも思いました。そうすることで、様々な価値観を知るきっかけにもなるのかなと思います。

・授業でSDGsの内容のものを取り扱うようになって、いろいろ調べたり、自分でも実際目標達成のために何ができるか考えたりはしていたがどれも抽象的にしかわかっていなかったのので、今回研修を通してSDGsとは何なのか、また具体的な例を知ることができてよかったですと思います。

### 4 成果と課題

この3年間、各教科・科目においてSDGsに関する授業を年1回以上実施する、という数値目標で取り組んできた。そして基礎プログラムで学んだ知識を3年次の商業科目「課題研究」で活用し、より探究的な学びとなるよう実践してきた。

講演会で『SDGsは目的ではなく手段だと考えている』と講師の方からお話をいただいた。SDGsを学ぶのではなく、各教科・科目で『持続可能な社会を創造するには』という視点で授業展開をするためにSDGs17の目標を手段として利用する、ということである。このプログラムを実践することにより、生徒の学びが机上だけのものではなく実社会と繋がったのではないかと考える。今後もSDGsの視点による教育活動を継続実施していきたい。



## 第2節 SDGs探究プログラム

### 1 課題研究 概要

令和3年度の開講講座のテーマ、育成する力、取組内容、受講人数は以下のとおりです。

テーマ	育成する力	取組内容	受講人数
地域活性化プロジェクト	問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力・ファシリテーション能力	地域活性化への取り組みとして、高柳夜店（山商の日）、キッズビジネスタウン、伊勢市民病院祭において企画運営など、イベントをプロデュース	25
商品開発プロジェクト	想像力・企画力・具現力・表現力・コミュニケーション能力	地元の食材や特産品を使ったオリジナル商品開発を立案し、地元企業に提案することで製品化を目指す	25
地域ボランティア	ボランティア精神・ノーマライゼーションの理念	NPO法人ステップワンとの交流をはじめ、ボランティア団体のイベント等へ参加（英語ボランティアなど）	25
ネットショップ	起業家精神・コンプライアンスの精神・表現力・コミュニケーション能力	「山商ネットショップ」を開設し、商品選びから商品発送までを実取引により事業主を体験	25
日本経済学	現状分析力・問題発見能力・表現力・論理的思考能力	日本経済が抱える問題についてグループ討議等を行い、多方面からその問題点や解決策を考え、小論文やレポートにまとめることで自らの考えを表現する	7
ビジネスプランコンテスト	発想力・企画力・表現力・コミュニケーション能力	日本政策金融公庫のビジネスプランコンテスト、マイナビのキャリア甲子園、関西大学KUEなど各ビジネスプランコンテストに参加して、全国大会出場を目指す	25
財務分析	分析力・数的処理能力・発想力・説得力	ビジネスゲームを通して、経営判断が財務諸表に与える影響を学んだ後、実際の財務諸表から経営における改善点を提案	17
未来の教室	柔軟性・課題解決・コミュニケーション能力	経済産業省と三重県教育委員会が連携した事業に参加し、次世代人材教育のプログラムを行う。Ma a Sを担うスキルの基礎となるSTEAMS教育のプログラム探究	25
観光とビジネス	発想力・企画力・課題解決・ビジネスコミュニケーション能力	地域の観光資源を研究し、地域の活性化・観光資源の再開発、エコツーリズム・グリーンツーリズムを踏まえた情報の発信を目標とする。	25

なお、各講座の1年間の取組状況は以下のとおりです。

#### (1) 地域活性化プロジェクト

##### ア 目的

若い高校生の活力で地元地域を活性化していくプロジェクトを自ら考え発信していく。地元の課題・問題に目を向けて、商業の視点で考え、望まれるニーズに対応した形で地域に貢献する。新しい事柄に積極的に挑戦し、地域との繋がりを作り問題解決にあたる力を養い将来地域を担う人材の育成を行う。

##### イ 取組内容

###### (a) 1学期

コロナ禍の一年になり、従来の地域商店街の夜店への出店ができなくなり、自分の地域の魅力を再発見し、発信するための動画を撮影編集した。



どの地域の作品も、多くの地元の方に支えられて、取材協力、インタビューなどが行え



た。高校生が地域に目を向けて行動する事の価値を再確認できた。

(b) 2学期

産業教育フェアに参加。宇治山田商業高校での学習成果を県民にアピールした。



イオンモール津南に展示

(c) 3学期

一年間を振り返り、課題研究発表会の資料を作成。課題研究の授業内での発表を行い、ブラッシュアップして本番を迎える。

ウ まとめ

来年度についても、今までのようなイベントへの参加は難しいと思う。与えられた条件の中で、地域にとって自分たちが出来ることを柔軟に模索していく予定である。

(2) 商品開発プロジェクト

ア 目的

9年前より地元企業の協力のもと、伊勢志摩地域の地場産業である第1次産業や観光業の活性化を目指し、地域の食材を使った商品開発を行っている。生まれ育った伊勢志摩地区の良さを、調べ学習を通して再確認し、地元愛を深めるとともに、生産者の生産物に対する拘りや思いを消費者に届けられる商品開発を目指している。

また、オリジナルの商品を開発することは決して容易いことではなく、明確な商品コンセプトを設定した上で開発行程に繋げていく必要があり、その手法や実体験を学ぶ中で、消費者の立場から、より多角的な視点で商品を理解し、自らの行動につなげていく力を養う。

イ 取組内容

(a) 1学期

今年度は、「マックスバリュ東海株式会社」池内様、森西様、晝河様との連携のもと、SDGsの観点を含めた商品開発を目指した。本学期では、開発行程の中で最も大切な「商品コンセプト」について、アイデアの創出方法（ブレインストーミングなど）を学びつつ、池内様達とのプレゼンテーションを重ねることで理解を深めることができた。活動の中で、「単に自分が作りたい商品を提供するのではなく、地域や社会と連携し、付加価値のある商品の開発をしていきたい。」と目標を定め、5つの班に分かれ、それぞれが真剣に意見を出し合った。その結果、SDGsのテーマ3・11を意識した「地域の特産物を使った一品」という商品コンセプトを設定することができた。



1学期の活動風景



2学期の活動風景

(b) 2学期

決定した商品コンセプトにもとづいて、池内様への提案商品を計画した。9月中は、緊急事態宣言によりオンラインでの活動となったが、伊勢志摩地域のことを班員それぞれで調べていく中で、利用できそうな多くの食材を知ることができた。

その結果、「健康」・「地産地消」というキーワードを意識した5品の商品を提案した。これらの商品については、地元企業の「株式会社利八屋」様や「マツキクフーズ株式会社」様、マックスバリュ社内の「デリカフーズ」様の3社のご協力のもと試作を繰り返しおこない、それぞれ納得のいく商品となった。さらに、パッケージデザインやPOP広告にも挑戦。消費者にどのようにアピールすれば売上に繋がるかについて、班で何度も協議・試作し完成することができた。



作った開発商品

(c) 3学期

1年間の振り返りとまとめを兼ねて、課題研究発表会へ向けてプレゼンテーションの準備をした。活動の要点を整理し、聞き手に効果的に伝えられるために、各自、意見を出しながら講座の魅力伝えるための工夫を考えた。



### ウ 学習の成果

授業を通して、①商品コンセプトの重要性 ②商品に付加価値をつけるためにはどのような工夫が必要か ③持続可能な商品開発の在り方について、考えを深めることができた。一つの商品を販売するために、開発だけではなく、いくつもの行程をふまなければならないこと、それぞれの企業様が協力して私たちが手にしている商品は提供されていることを体験できた。

### エ まとめ

「マックスバリュ東海株式会社」池内様のご指導のもと、実際の商品開発に携わることができた。私たちの意見に対し丁寧に検討していただく中で、一つ一つの商品は販売されるまでに様々な背景があること、商品開発を通して地域や社会を変えていける可能性があることを学び、今後の私たちの行動につなげていきたいと感じた。

## (3) 地域ボランティア

### ア 取組内容

#### (a) 1学期

- 各自がボランティアに関するテーマを1つ選んで、レポートを作成。
- ワークショップを通じて、注1 CRM、注2 ノンテクニカル・スキルについて学習。
- 校内ボランティアの企画と実施。

(注1：CRM(クルー・リソース・マネジメント)とは、航空業界において開発された技法のこと。積極的なコミュニケーションにより、チームが協力して、エラーの発生を少なくしようとする活動と技術のこと。)

(注2：CRMに活用される技術で、5つのスキルで構成されている。)

- SDGsについて資料映像鑑賞。

#### (b) 2学期

- SDGsについて、「ゴー・ゴールズ」を使用し、学習。
- 1学期に作成したレポートのテーマから班を作り、調べ学習と発表会を実施。
- 「障がい者サポーター研修」をオンラインにて受講。
- 校外学習として、防災センターにて、いのちをまもることについて学習。
- 外部講師による校内講座を2回実施。
  - ①企画書の作り方とプレゼンテーションの基本
  - ②手話講座
- 年度末の課題研究発表会向けのプレゼンテーションの資料づくり



校内ボランティア ワークショップペーパータウン



ゴー・ゴールズ



手話講座



防災センター



企画書の作り方他

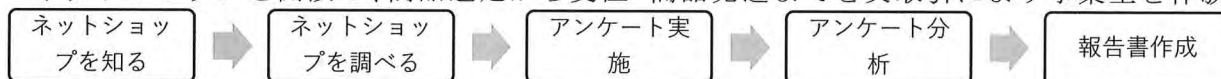


班ごとの調べ学習  
壁新聞として掲示中

## (4) ネットショップ

### ア 取組内容

ネットショップを開設し、商品選定から受注・商品発送までを実取引により事業主を体験。



#### (a) 1学期

1学期は、まず、ネットショップについて深く知り、その後普段使っているネットショップを自ら検索し、それぞれのネットショップにどのような特徴があるのかを調べた。その後、世の中の人々は、どのような目的でネットショップを活用しているのかを、先生と保護者へアンケートを行い、分析をした。そして、最後に Chromebook を用いて、報告書を作成した。

#### (b) 2学期

##### マーケティング班



##### Web班





2学期は、まず、最初に販売する商品を選んだ。その後は、マーケティング班とWeb班に分かれた。マーケティング班は主に企業とのやりとりのために、電話の仕方や交渉の仕方を学習した。その後、実際に、企業へ電話をかけ、仕入価格の交渉や商品の販売方法の交渉を行った。Web班は、Webページのレイアウトを考えた後、Webページに載せる写真を自ら撮影したり、Webページのロゴを作ったりし、Webページに必要なものを準備し、その後、Web制作を進めた。最後に、マーケティング班とWeb班合同で、ネットショップのPOPを作成し、各出身中学校へ提示してもらった。

【販売した商品】



ブランカ：シェルレーヌ      ないぜ自然村：みかんのきもち      魚春：さめのたれ      菓子工房スマヤあおさクッキー  
 ・開発商品・・・今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、8、9月に商品開発チームの授業が出来なかったので販売出来なかった。  
 ・販売期間・・・11月22日から12月20日まで（1か月間）

イ まとめ

今年度は、昨年度を上回る注文を受けることができ、1年間の活動成果が出た。しかし、送料やECサイトの運営費用等が多くかかり、赤字決算となってしまった。次年度以降は、送料の問題や運営費用等も十分に考えたうえで、運営していく必要がある。活動を通して、1、2年生で学んだ情報処理や簿記の知識を活用し、アンケートの集計や、取引の仕訳から総勘定元帳の作成、財務諸表の作成まで行うことができ、1、2年生での学びを生かすことができた。

(5) 日本経済学

ア 取組内容：

- (a) 「日誌」  
経済に関する新聞記事を要約し自分なりの視点で社会の課題について考えられるようになる。
- (b) 「小論文コンクール等への応募」
- (c) 「日経ストックリーグへの参加」  
→ 模擬投資活動を通して、経済感覚を磨く。  
→ 企業のSDGsの取組みを通して、経済活動について考える。



「JICA エッセイコンテスト」



(d) その他にも、テーマ設定の内容を探究しプレゼンテーションを行ったり、財務諸表を分析比較し企業分析なども行った。



(6) ビジネスプランコンテスト

ア 取組内容

コンテストに応募し、全国大会出場を目指す



**6月 【関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC】個人応募**  
 著名な大手企業が実際に直面している課題の解決策や新しいアイデアを求めるいくつかのテーマの中から、自分の好きなテーマを選んで応募する。審査後、学生のプランが実際に企業の事業として採用される場合もある。

**9月 【高校生ビジネスプラン・グランプリ（主催：日本政策金融公庫）】チーム応募**  
 活力ある日本創り・地域活性化を目指すため、次世代を担う若者の創業マインド向上を目的とした全国規模のビジネスプラン・グランプリ。高校生ならではの自由な発想や創造力を活かして[人々の生活や世の中の仕組みをより良いものに変えるビジネスプラン]または[地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決するビジネスプラン]のプランにチームで応募する。

**11月 【キャリア甲子園（主催：株式会社マイナビ）】チーム応募**  
 協賛企業からの課題にチームで挑戦するコンテスト。書類審査、プレゼン動画審査、準決勝と戦い企業代表チームが決定。さらに、その企業代表チーム同士で決勝戦を行い優勝チームを決定。決勝戦の舞台は東京。そしてインターネットで生中継！ ★総合優勝チームには100万円分の海外旅行研修ツアー贈呈★  
 ◎ チーム「女帝」と「伊勢卍會」が書類審査を突破し、プレゼン動画審査に進出しています。

イ 主な授業内容

- アイデアの考え方やSDGsなどの講義・学習
- 応募する企画（ビジネスプラン）の考案
- ブレインストーミング → テーマ決定
- 内容を議論 → プレゼン発表
- フィードバック → ブラッシュアップ
- これらを繰り返し行う
- 各コンテストへエントリー
- プレゼン発表は相互評価とルーブリックによる教員評価



◆これまでの実績◆

<2018年度>

初挑戦にして、全国大会出場。ZOZO テクノロジーズの課題に対し、新ブランド『JENNIFER;（ジェニファー）』を提案。部活動などで忙しい高校生の10年後のファッションと諸外国の雇用問題を同時に解決するビジネスプランを考えた。

----- キャリア甲子園（株式会社マイナビ） -----

Job旅

講師 北山 登志  
 池谷 結  
 竹本 遥太

<2020年度>

日本ユースホステル協会の課題に対し、職業体験型の新しい旅プラン『Job旅』を提案。この、ホステル協会が行う新しいインターンシップにより、日本が抱える高い離職率、地域の過疎化、特定産業の担い手不足という課題を同時に解決するというビジネスプランを考えた。



三十三総研主催「33FG ビジネスプランコンテスト」

<2019年度>

今年度初挑戦で2次審査へ進出。自転車を漕いでできるエネルギーを電力に変え携帯の充電や災害時に役に立つ機械や、エネルギーを健康管理に役立てるアプリや、エネルギーのポイント化などを提案した。



(7) 財務分析

ア 取組内容…ビジネスゲームを通して、経営判断が財務諸表に与える影響を学んだ後、実際の財務諸表から経営における改善点を提案。

(a) 1学期

決算書の読み方を復習、プレゼン資料の作成方法、決算書の2期比較実習、マネジメントゲーム実習

(b) 2学期

NPO法人の決算書を分析、講座内で発表・意見交換  
課題研究発表会に向けての資料作成



発表風景

(8) 未来の教室

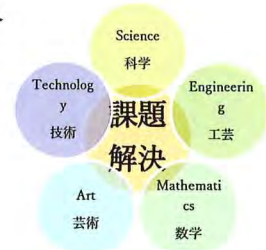
ア 取組内容

経済産業省と三重県教育委員会が連携した事業に参加し、次世代人材教育のプログラムを行う。

MaaS (モビリティ・アス・サービス) を担うスキルの基礎となる STEAMS 教育のプログラムの探究。

○STEAMS 教育とは

Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics 等の各教科での学習を実社会での問題発見・解決にいかしていくための教科横断的な教育



(a) 1学期

新しいモビリティの活用方法を考えた、新たなサービスを創造し、企業に向けた提案を行うためのプレゼンテーションを制作した。その中には、SDGs の視点も取り入れ、社会における課題も学習する。

(b) 2学期

授業の進め方は、「GoogleClassroom」を活用して、課題や映像教材を配信し、各グループがそれぞれに取り組む。1学期の取り組みを基にして、MaaS に対する日本の現状と世界の状況を学び、高校生の視点による新たなビジネスを考えることで、創造力や課題の設定、ステークホルダーへの意識など、ビジネスシーンにおいて必要となる課題設定能力・コミュニケーション能力の向上を図る。

授業の進め方



あなたは起業家。会社の価値について考えよう  
「会社とは？」



本日授業 未来の教室 未来の教室 未来の教室  
授業内容 (10分程度)  
1. 未来の教室とは?  
2. 未来の教室の役割と重要性  
3. 未来の教室の未来像

「起業家ゲーム」では、各グループが考えた新規ビジネスのプレゼンテーションを外部有識者が評価し、その結果と AI による将来価値により算出された企業価値を向上させるためのチャレンジを行う。



○数値化できない自分の能力を可視化する評価測定ツール「AiGROW」を使用して、自己評価だけでなく他者からの評価も併せて分析された測定結果から、自分を再確認することを行う。測定は、受講する前と後で行い、学習を通して成長した自己の資質を確認する。



## (9) 観光とビジネス

### ア 目的

SDGsの理念に基づいた、自然資源を生かしたグリーンツーリズムなどを利用し、地方創生を目指した取り組みを学ぶ。また、インバウンド観光に需要が高まっている現在に対応できる力を身につけることや従来型の観光でない地域の生活文化を体験するなど、地域住民と訪問者の交流が観光の多様化を生むこと、地域と訪問者を結ぶ存在として、必要とされる力を学ぶことを目的としている。

### イ 取組内容

#### (a) 観光甲子園エントリー

「観光甲子園」は高校生が創作する180秒観光動画のコンテストである。

<年間の流れ>

1. 地域課題をみつけテーマを決める。

2. 情報を収集するため取材を重ねる。

<予選書類提出>

3. 予選通過班は、180秒動画を作成する。

<準決勝書類提出>

4. 動画作品の企画・調査から制作に至る過程を300秒の動画にまとめる。決勝【グランプリ、準グランプリ決定】



#### (b) 高校生ビジネスアイデアコンテスト

持続可能な社会の構築に向け、地域や社会の課題を解決するビジネスアイデアを公募するコンテスト。観光甲子園で探究した内容をそのままビジネスアイデアに転換し、地方創生を意識したアイデアをエントリーした。

<エントリーしたアイデア>

○SDGs×地元伊勢志摩 ツアー

○自転車防犯&運動量チェック

○JK presents 伊勢木綿ツアー



#### (c) 株式会社JTBコンペ

以下の観点で株式会社JTB様にむけて旅行コンテンツコンペを行った。

・伊勢志摩地域の「まちひとしごと総合戦略」の分析

・ビジネスの視点を取り入れる。

良い発案があったとしても、利益の見込みがないもの、実現することが困難な提案は商品にならないので、原価設定や販売価格設定まで考える。

・地球課題解決×三方よし（世間よし、お客よし、企業よし）

SDGsの視点をもって、地球課題を解決できる提案を、そして世の中のためになること、お客様も喜ぶ、そして企業の成長にもなるような提案を心がける。

<今回提案された旅行コンテンツ>

○密猟ラップの体験コンテンツ

○伊勢木綿デザイン体験

○SDGsの謎解きプランコンテンツ

○海女文化に出逢う旅

○真珠の取り出しとアコヤガイの貝柱を食べる体験コンテンツ

## 2 課題研究「商品開発」 ～ 地域に貢献できる商品開発を目指して ～

### (1) 授業の目的

9年前より地元企業の協力のもと、伊勢志摩地域の地場産業である第1次産業や観光業の活性化を目指し、地域の食材を使った商品開発を行っている。調べ学習を通して生まれ育った地域の良さを再確認し、郷土愛を深めるとともに、生産者の生産物に対する拘りや思いを消費者に届けられる商品開発を目指している。

また、オリジナルの商品を開発することは決して容易いことではなく、明確な商品コンセプト



トを設定した上で開発行程に繋げていく必要があり、その手法や実習を体験する中で、従来の消費者という立場から、学習を通じより多角的な視点で一つの商品を理解し、これらの経験を自らの行動につなげていく力を養う。

## (2) 取組の内容

昨年度、製品化された商品は提携企業様のご協力のもと店頭販売まで実現できた。今年度は、伊藤忠食品主催の「商業高校フードグランプリ」への出場を目指していたが、コロナ禍の状況も影響し実現することができなかった。

このような状況下であったが、地域に貢献できる商品開発の継承を実現すべく「マックスバリュ東海株式会社」池内様・森西様・晝河様と連携し、地域食材を活用した商品開発の企画・販売を中心に授業をおこなった。

### ア 1学期

(a) 開発行程の中で最も大切な「商品コンセプト」について、アイデアの創出方法（ブレインストーミングなど）を学びつつ、池内様達とのプレゼンテーションを重ねることで理解を深めることができた。



(班学習)

(オンライン発表)

これらの活動の中で、「単に自分たちが作りたい商品を提供するのではなく、地域や社会と連携し、付加価値のある商品の開発をしていきたい。」と目標を定めた。5つの班に分かれ、班ごとに活動することで議論を深まり、活性的な意見交換をする場面が見受けられた。

同時に、地域課題や食材についてもインターネットなどを活用し調べていく中で、それらを活用した商品開発に取り組み、その結果、SDGsのテーマ3「すべての人に健康と福祉を」・11「住み続けられるまちづくりを」を意識した「地域の特産物を使った一品」という商品コンセプトを設定することができた。

(b) 7月には、池内様より商品開発のためのコスト計算などについて講演していただいた。

商品ロス管理の大切さや売価・原価の設定基準などについて学びを深めることができ、簿記などの学習とのつながりを実感できた。また、食材には「旬」の時期があり、栄養価なども変化するため、「健康」を意識した商品を目指すために必要な視点であると感じた。



(池内様のご講演の様子)

(c) 1学期中に、商品化を目指す5品を決定することができた。コロナ禍により校内での試作が実施できなかったため、夏休み中に各自が自宅にて試作をする課題を設定し、2学期に向け準備をした。



(1班：あおさと伊勢ねぎを使用した餃子)



(2班：あおさを使ったお茶漬)



(3班：あおさとちりめんじゃこのお好み焼き)



(4班：伊勢たくわんを使用したタルタル卵サンド)



(5班：三重県盛り沢山お茶漬)

夏休み中に調理した  
開発商品



イ 2学期

(a) 9月中は、緊急事態宣言によりオンライン授業での活動となったが、GoogleClassRoomを利用し、班別のミーティングを開くなど商品化の実現に向け、有意義な時間を過ごすことができた。



(オンライン授業の様子)

(b) 10月には、商品レシピを池内様たちに提案し企業内で検討いただいた。

提案した商品については、地元企業の「株式会社利八屋」様、「マツキクフーズ株式会社」様、マックスバリュ東海株式会社社内の「マックスバリュデリカ」様の三社のご協力のもと試作・試食を繰り返し行い、それぞれ納得のいく商品に仕上げることができた。

試食評価シート

(商品を購入する側の視点で)

	悪い	やや悪い	普通	やや良い	良い
見た目について	1	2	3	4	5
食味について	1	2	3	4	5
内容量について	1	2	3	4	5
食べてみての感想 (上記の視点以外でもよいです)	断面は緑しか見えなくて、本当に肉が入っているのか？と疑問に思った。食べてみると、噛むことにおおさとねぎの味が広がった。その他の味は感じられなかった。薬味系の味しかなないので、味のパンチが弱いかなと思った。シャンタンなどの調味料をもう少し工夫してもいいかもしれない。最後にはねぎの風味が残った。可もなく不可もなくといった味と感じた。買った人はリピートはしないと思う。				

試食評価シート

(商品を購入する側の視点で)

	悪い	やや悪い	普通	やや良い	良い
見た目について	1	2	3	4	5
食味について	1	2	3	4	5
内容量について	1	2	3	4	5
食べてみての感想 (上記の視点以外でもよいです)	見た目は少しきざみのりが多いように思った。また、きざみのりの太さをもう少し細くしたほうが綺麗に見える気がする。味は普通のお茶漬けと同様に美味しかった。少し入っていた人参がふやけていなかったのか、堅かった。				

(c) 最終決定した商品名

企画した商品原案	決定した商品名
1班 「おおさと伊勢ねぎを使用した餃子」	→ 「ほいじゃあおさ餃子」
2班 「おおさを使ったお茶漬け」	→ 「高校性がお茶漬けつくってみた」
3班 「おおさとちりめんじゃこのお好み焼き」	→ 「伊勢風お好み焼き」
4班 「伊勢たくわんを使用したタルタル卵サンド」	→ 「伊勢たくあんDEボリふわ卵サンド」
5班 「三重県産り沢山お茶漬け」	→ 「宇治山田商業高校オリジナル茶漬け 鮮ーあざやかー」

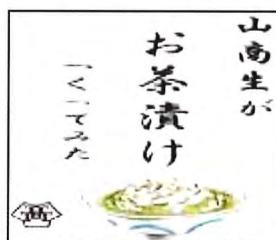
(d) パッケージデザイン・POP広告 完成

11月に池内様より、「景品表示法」について講演いただき、商品を販売するうえで、正確な情報を提示していくことの重要性を学ぶことができた。

その学習を生かしつつ、班内で「消費者にどのようなアピールをすれば売上ににつながるか」や「パッケージに使う素材は何を選択すれば環境にとって最適であるか」といったことについて、各班が何度も協議・試作し完成することができた。



(1班のパッケージデザイン)



(2班のパッケージデザイン)



(3班のパッケージデザイン)





(4 班のパッケージデザイン)



(5 班のパッケージデザイン)

### ウ 3 学期

商品の店頭販売に向け、最終調整を池内様と行った。また、1年間の振り返りとまとめを兼ねて、2年生を対象にした課題研究成果発表会のプレゼンテーション準備に取り組んだ。

プレゼンテーション準備では、活動の要点を整理し、聞き手に効果的に伝えるためにはどのような工夫が必要かなど、講座の魅力伝えるため議論を重ねた。

#### (a) 授業アンケートより (生徒意見 抜粋)

班活動では、自分の意見を持ち、しっかり発言することを大切にしました。私はオリジナルのアイデアを出すことが苦手で、自由にモノを作るときにはなかなかアイデアが浮かばず悩んでしまいます。商品を開発する中で、そういった発想力は必須だと思い、苦手を克服するために商品開発を選びました。

だから、的確なアイデアが浮かばなくても少しの気付いたことや考えたことを発言することを心がけ、グループの意見が完成することを目標に取り組むことができました。

SDGsに関する取り組みでは、食べ物の大切さや食品ロスで日本の食料廃棄率が上がっているということが分かった。また、買い物に行く時に自分が考えた商品に使われている材料の値段やカロリー、栄養素を見て値段を考えるようになった。商品を買う時になるべく手前のものを取るようになる。

お店に並んでいる商品がどのような苦労を経て開発されているのか、また、商品一つ一つに込められたコンセプトとはどのようなものなのかについて考えるきっかけとなった。商品を開発するにあたって、消費者が求める商品の開発に取り組むためには、消費者の目線になることが大切なことであると改めて気づくことができた。商品開発をしていると、つい開発者目線だけで考えてしまうため、売り上げや食材にこだわってしまった。

食品に関わるSDGsの取り組みや、消費者目線だけでなく開発者目線でも食べ物や資源を無駄にしない開発方法について学ぶことができた。普段は開発者目線で考える機会は少ないと思うので、SDGsについて十分に理解を深められる授業だったと思う。このようなSDGsに関する学習から得た知識や経験を、社会に出ても活用していきたい。

新型コロナウイルスの影響により、例年通りの活動ができなかったが、そのような状況下でも自分たちで活動内容を考え、時間を無駄にしないような取り組み姿勢を意識することができた。

また、授業内ではグループ活動やプレゼンテーションをする機会が多かったため、積極的に発言する力や、発想力、協調性を身につけることができ、自信を持てるようもなった。

普段は取り組むことのできない活動だと思うので、商品開発を通じて様々な経験を積めてよかった。期間内に商品の販売まで至らなかったが、この授業を通して学んだことを卒業後も様々な場面で発揮していきたいと思う。

3年間を通して得たSDGsの知識を、商品開発の過程で実際に活用できました。地域の食材を使うにも、その食材にどういった栄養価が含まれるかを詳しく調べ、使用することで、17の目標を関連付けて商品開発ができたと思います。

また、自分たちがSDGsに関連した商品を提供することで、その商品を目にした方にもSDGsについて興味を持ってもらえることは、3年間学習してきたことを発揮する場になると思うので、商品開発ができてよかったです。

### (3) まとめ

#### ア 学習の成果

(a) 地域の調査を実施していく中で、自分たちの住む場所には多くの魅力があることに気づくことができ、学習したSDGsに関する知識を活用することで、地域に貢献できる商品開発を実践することができた。

(b) 企画に対するアイデアの創出方法を実践し、5つの商品提案を実現できた。また、企業様との打ち合わせやオンライン会議を重ねることで、自らの考えを発信する力を身につけることができた。

(c) 実習を繰り返すことで、一つの商品を販売するためには開発だけではなく様々な行程



が関係していることや多くの企業様が協力することで、私たちの手元に商品は提供されていることを体験できた。また、商品を売るためには、自分たちが作りたい商品を開発するだけでは不十分であり、消費者が興味・関心を抱く商品提供をいかにできるかが大切だと学ぶことができた。

#### イ 学習の課題

- (a) 本来であれば、商品コンセプトを念頭に開発工程をしていくべきであるが、各工程に意識が集中してしまい、結果的に年度当初に設定した商品コンセプトから提案がズレてしまうことがあり、どの工程においてもコンセプトを常に確認しながら作業をすることが必要であった。
- (b) 商品の魅力を高めようと企画・提案していくが、開発コストとの兼ね合いで実現が困難な時に、課題を解決する提案をすることができなかった。

#### ウ 最後に

3年間の最終年度は、それまでの学習活動の流れをつなぐことが難しく、「地域に貢献できる商品開発」をテーマに授業を実施することとなった。

本年度の授業では、池内様を中心としたご指導のもと、多くの実践を重ねることができた。4月当初、生徒は自分視点の考え方から企画・提案をしていたが、学習を深めていくことで、次第に一人ひとりが視野を広め、専門的な知識や多角的に物事を捉えられる力を養うことができたと感じている。「マックスバリュ東海株式会社」の皆様には、私たちの意見に対し一つ一つ丁寧にご検討いただき、感謝の気持ちでいっぱいである。

残念ながら報告書には掲載できなかったが、2月下旬から3月上旬には開発した5つの商品は販売を迎えがえる。

この3年間の経験を今後の私たちの行動につなげていきたい。



(今年度「商品開発プロジェクト」を選択した生徒)

### 3 課題研究「ビジネスプランコンテスト」

#### (1) はじめに

「ビジネスプランコンテスト」講座は、2017年度から開講され本年度で5年目を迎える。この講座では、様々なビジネスプランコンテストに応募し全国大会出場を目指す過程で、社会への関心を広げ、発想力や創造力、表現力、協調性、プレゼンテーション能力を高めていくことを目的としている。開講2年目から、主に[関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC]、[高校生ビジネスプラン・グランプリ]、[キャリア甲子園]に取り組んでいる。2019年度には追加で三十三総研が主催する[33FGビジネスプランコンテスト]に応募し【自転車を活用した発電装置『けた』】という企画が学生コースで優秀賞に輝いた。2020年度には【龍谷大学ビジネスプランコンテスト「プレゼン龍2020」×SDGs】にも取り組んだ。

#### (2) 取組の内容

##### ア KUBIC (関西大学主催のコンテスト)

このコンテストは、協賛企業・団体から出されるお題に対して企画を応募する「テーマ部門」と、自由な発想で考えた企画を応募する「自由応募部門」があり、本講座では「テーマ部門」へ個人で応募をしている。取り組むテーマについては、生徒自身が関心を持った企業・団体のお題を自由に選択している。

##### (a) 2019年度

協賛企業・団体はアイチコーポレーション、センコーグループホールディングス、ソフトバンク、ドウシシャ、日本経営、ハウス食品、富士通の7社、出題テーマは全37テーマであった。表1は生徒が実際に応募した企業・団体、テーマ、企画タイトル一覧である。この中でSDGsを意識した企画は赤字の2個であった。